柏崎体育

発行所　柏崎体育団　柏崎市役所
発行編集人　月橋　会
印刷所　柏崎印刷株式会社
定価　一部　15円
（毎月1回　10日発行）

国体会場計画きまる

昭和三十九年の第十九回国民体育大会はさきに新潟県に決定し、県下各市町村に会場が内定していたが、柏崎市の受持つ軟式野球、ハンドボール、水球の三種目の主会場、練習会場とそれにともなう整備計画が、十月二十六日の柏崎市国体準備委員会できめられた。

これにより、国体の内容や、県準備委員会の方針に特別の変更がない限り、今後これらの施設に相当の経費がつぎこまれ、整備された上、二年半後の国体に全国各地から集まる三千人の選手役員にお目見得することになった。

計画では、野球場二面、ハンドボール場男子二面の県事務局案に対し、第16回秋田大会の実績に基いて夫々一面ふやし、野球主会場三、ハンドボール主会場男子三、女子三、水球主会場一という膨大な施設計画が生まれたわけで、殆んどが新設となるだけに、その準備には期間と予算の面で非常な決意を要するものである。

陸上競技場を中心に集中した競技施設

学校施設の整備も急ピッチ

国体柏崎会場は市営陸上競技場を中心とした海岸公園施設、学校施設に集中され、主競技場七面が総合運動場の様相を呈し、この面からは他市の追随を許さない。即ち軟式野球は市民広場と柏高、柏工高球場、ハンドボールは陸上競技場、一中運動場二面、水球は市民広場隣に新設という具合で、この施設群しめて九八八三五平方米（約三万坪）となるもので、昭和三十七年度からはじめられる整備工事で、またこの附近の様相は一変するであろう。

各施設の整備計画については予算約八千万円で、主競技場については三十七年度中に、練習場については三十八年度中に整備を完了するよう計画しているが、いずれも予算の配分によっては次年度にかかるものも生じてくることになる。

財源としては、国費、県費、厚生年金融資を期待し市費も相当投入するわけであるが、いずれにせよ財政逼迫の折、整備計画遂行には相当な困難が横たわっている。

それでは準備委員会できめた各施設の整備計画をみてみよう。

軟式野球会場

○市民広場（主）
ハンドボール会場にするか、野球会場にするか準備委員会で論議の的であった。現在のこの施設のもつ有用性と都市計画上の制約からこゝを正式球場にすることはむつかしいことであった。そうかといって野球連盟が強い要望を示した別の場所への市民球場建設が現状では困難であり、また候補としてあげられた一中運動場も市を代表する施設としては面目を欠くという声もあったりして、結局は市民広場を国体後も市民広場として効果のある使用ができるように考慮して、野球会場として整備する事になった。

整備内容
メインスタンド、内野スタンド（いずれもコンクリート造、十段）ダッグアウト、スコアボールドバックスクリーン、撒水設備、外野フェンス、便所、グランド面補修。

○柏高校球場（主）
メインスタンド増築、外野フェンス、仮設便所、バックスクリーン。

○柏崎工業高校球場（主）
内野スタンド、スコアボールド、外野フェンス、ベンチ、バックスクリーン、便所、グランド面補修。

○柏崎商高球場（練）
外野フェンス、グランド面補修。

○柏農高球場（練）
グランド面整地補修、外野フェンス、バックネット。

○田尻中運動場（練）
グランド面補修、外郭金網、バックネット。

○第四中運動場（練）
グランド面補修、バックネット、外郭金網。

ハンドボール会場

○市営陸上競技場（男・主）
歴史を誇る陸上競技場も国体時にはハンドボール会場としてのみでなく、柏崎市の中心会場として前夜祭やエキジビションの舞台となる。このため旧式なメインスタンド役員席は全面的に改築され第二室戸台風でいたんだ器具室も更衣室と共に新設されることになろう。
役員席改築、器具更衣室盛土、ゴール、ボールよけ。

○第一中学校運動場（男二面・主）
整地、排水、盛土、スタンド、境界金網、ボールよけ、ゴール。

○白竜公園（女三面・主）
土地買収、補償、整地、排水、外柵、スタンド、更衣室、便所、ボールよけ、ゴール。

○荒浜中運動場（男・練）
盛土、ゴール。

○西中通中運動場（男練）
ゴール、外郭金網。

○北鯖石中運動場（男練）
ゴール、外郭金網。

○第三中運動場（男・練）
拡張（山の切崩し）ゴール、ボールよけ。

○第二中運動場（女・練）
整地、ゴール、ボールよけ。

○柏崎常盤高運動場（女練）
整地、ゴール、ボールよけ。

水球会場

○海岸公園総合プール
老朽した八坂プールの代りにかねて米山水連が要望していた総合プールが国体を契機に出現することになる。五〇米プールと二五米に徒渉池を持つ近代施設。勿論浄化装置も更衣室、シャワー室等も完備したものである。三千五百万円の予算では飛込みプールが出来ない。これだけが将来に残された。場所は市民広場の西に道路をへだてた一角。一万五千平方米（四六〇〇坪）
五〇米プール、二五米プール、整地、固定スタンド、更衣室便所、浄化装置、管理建物、ゴール、外柵その他。

○八坂水泳場（練）
更衣室修理、シャワー修理、外柵、ゴール、プールサイド整備。

○第一中プール（練）
プールサイド整備、ゴール。

○田尻中プール（練）
プールサイド整備、ゴール。

第16回国体 視察者報告座談会

国体は終った。いよいよ新潟も本格的な準備期に入る事になる。本市でもその一つの参考の意味も含めて十月十六日、佐渡五で視察報告会を開いた。以下その記録をまとめてみよう。

司会
○柳　喜八郎（市衛体課）

出席者（五十音順敬称略）
○石黒　武久（市議）
○入沢　藤英（ハンドボール協会副会長）
○遠藤　誠造（会社社長）
○金子　武一（水泳連盟）
○神林新三郎（陸協）
○桑野　勝郎（市議）
○近藤　禄郎（体育団長）
○霜田謙二郎（市議）
○田鹿　真一（庭球連盟）
○中村　卓雄（市議）
○横関　喜一（水泳連盟）

記録
○佐藤　和夫（市衛体課）

施設の整備状況について

一般的に大都市の主会場は立派に整備されているが小都市の各競技施設は急場をしのいだ感がある。

スタンドなど新しく施設されたものはあまり見られず、野球における「バネル」二枚重ねの外野フェンスやスジャッジから開始当初すでに三〇分、四〇分もの試合中断もみられ、完璧な運営とはいえない。

審判員、補助員の服装は一様に真新しいものを揃えたりしている種目が多く、記録の速報、掲示等放送関係、観客に対する気の使いかたも種目によって良きも悪しきもあったが、大して参考にもならない。屋外コートは雨の際ビニールのおおいを使い、コートのぬれるのを防いでいた。

平地に仮設されたダッグアウトなどがよくみられた。その代り競技する部分（グランド面）の整備に力を入れ、土質の良質なものや、排水暗キョ工事を施した会場が随所にあり、反面テント張りの本部席も多かった。全体をみて概して立派な施設ではない。練習会場もまた然り。国体に使用した会場を、そのまま永久にその種目の施設にするとは限らないで、設備の不備もやむを得ないとすべきであろう。しかし、各都市に於ても体育館等の屋内施設の建築は盛んに行なわれていた。特に秋田市は、体育施設以外の建設も盛んで、いわゆる「町ぐるみ国体」「国体という名の町づくり」運動にめざましいことがわかり、秋田民衆駅、秋田空港、し尿処理場、道路補装等の完成をみた。

競技の運営について

主審判員の多くは中央より派遣されてくるが、地元役員の訓練も相当に行われた事が伺われる。そのために国体前に全日本級の大会を開催し運営やら補助員の強化を各種目とも行った。しかしある種目については審判員のミ

地元選手の強化方策はどうか

開催地であることから、いつもより力を入れたことは想像出来るが、それには一つの種目に多くの選手を養成し選抜する。即ち「得点につながる様な団結精神の訓練」が強く見られ、このことが、今大会秋田県総合第二位の偉業をなしとげた原因でもある。

本市としても、現在特に中学校三年生（三十九年には高校三年になる）を主体にしての強化策が必要で、そのためによい指導者の確保が強く望まれる。この点本県でも県内外の優秀指導者を高校教師に迎え入れることになっている。

歓迎方法について

「われらの国体われらもひと役」との標語もつくられているだけに、主会場の秋田市はともかく、その他の都市、特に小都市になる程その歓迎の表現は「すさまじい」ともいえる程である。

秋田市に於ては「市民憲章」を制定し、標語募集は約四〇〇点も応募があったという。また「国体ハンドブック」を作り、種目ごとの観方の説明、国体とは何か、その他受入れ態勢などをくわしく市民に知らしめている。そのためかどうか市民の国体関係者への心使いはこまかく、対人間関係に非常に気持ちのよい印象を与えた。

・**文化団体**――婦人会、青年団、ボーイスカウトは駅前案内、会場の湯茶接待、会場、旅館、宿舎への誘導。

・**学校**――夏季休暇を一週間短縮し、この大会期間中全校が休校処置をとり選手、役員、視察員の誘導、大会補助員、環境美化運動にあたる。

・**一般市民**――民家宿泊の多かった今大会は、特に町内単位の歓迎、土地全体が快よく受入れ態勢に真剣に協力している。「花いっぱい運動」で、電柱の一本一本に空かんをとりつけ草花を副える心使い、各県名旗をつくり、万国旗風に飾りつけたものがみられ、看板等も国体用に装飾してあった。前夜祭が大変盛んで山車をくり出し花火をあげて意を表わしていた。

・**業者**――大企業の投資も相当みられ、歓迎塔などにもそれがうかゞわれる。市内の飲食店も普段より割安が協定されていた。

・**その他**――自衛隊始め、小中高校の鼓笛隊の結成が盛んで、選手の列車到着ごとに鼓笛隊を先頭に宿舎までねり歩くなどの歓迎ぶりであった。

・**環境衛生**――町をきれいにする運動も、大会中はその実を挙げていたと思う。特に主会場に於ては期間中紙くゞを見つけなかった位で、落すのを待ってひろっているといった感じであった。また入場者にはビニール製のエチケット袋なるものを渡したことも、よい結果を得た原因でもあろう。

宿舎について

半数の選手、役員が民泊を余儀なくされた今大会は各会場の事務局も非常に頭をなやました様子であった。

民家の選定もきびしい基準を作ったため（便所の数浴室の規模、部屋数、調理場、衛生面等）該当した民家は全て中流以上の家庭であり、かなりよかったと思われる。宿泊料、食事等全て規定されたものであるが旅館と異なる家庭的な雰囲気や、選手達自体の行動がよい意味で自然に掣肘された形となり、今の所悪い評判は聞かれていない。しかし選手掌握の面では民泊は困る。民泊については、その家庭だけでなく、その町内が一体となっての世話ぶりが好感を持たれたようだった。

交通について

車輌の数はいちゞるしく不足しており、視察の責を果すには、自分で自動車を持って行く以外にない。

市内のハイヤーは旅館の数に比例して少なく、それも殆んどが報道関係に契約されたり、各県の専属になったりで、突然の需要には全然応じられない状態である。

しかし秋田市内に於ては市営バスがフル運転をしており、約五分位の間隔で利用出来た。その上バスの利用（乗り降り）が、これ程心易く出来たことはこの大会が一番である。また車輌の不足を補うため、自家用車、営業用の車が多く動員されたり、民泊の家庭で自家用車のない所では借りて来て選手の送迎を行ったりしていた。

そんなことで交通ははげしく、指定の車旗、標識を持たない車は思う様に通行出来ない状態である。車の数は足りなくとも以上の方法で一応満足といわねばならない。但し視察には必ず車の必要なことは前述のとおりである。

開会式について

主会場の秋田八橋競技場で総合開会式を行ったが、あとはその種目ごとに開催地に於てそれぞれの方式で開会式を行った。

ある種目に於ては、一種別を一日で消化していったため、毎日各種別ごとの開会式を行ったが、これは特殊な例である。

方法はありきたりのもので、花火の打上げ、鼓笛隊花束を各県主将に贈呈、中央の種目会長、地元の挨拶であった。

その他

柏崎に行われる予定の三種目のうち、野球はともかく、水球、ハンドボールはいずれもなじみの薄い種目であるから、その普及をいかにすべきか。

・市内にそのチームをつくり、養成する。特に先生のチームをつくることにより普及と養成を計る。

・学校における体育指導にその実技をとり入れる。

・事務局を強化し、局員に指導者を置き市民体育大会その他機会あるごとに知らせる。

秋田国体への直言

月橋　会

秋田県に行なわれた第十六回国体についての各方面の批評感想はすでに出つくしている。民泊がよかったとか、開会式がうまくいったとか、或いはまた秋田県人の親切をしみじみ感じたとか色々ある。それはそれなりに本当であって、今更また重ねて言う必要はないと思う。

私は、我が市はじめての計画として、自動車をもって国体に赴いた。途中若干のメンバーの変更はあったが、同行したものは入沢藤英氏、松原賢治氏、遠藤誠造氏、田村弘氏、竹井一氏であり、柏崎――秋田――森岳――秋田――大曲――横手――湯沢――柏崎と廻ったのであるが、途中、西目(サッカー)羽後本荘(ソフトボール)等も視察したわけである。

私は全般を通じ、秋田県民が一つの方針をもって、一丸となって努力した事について、最大の敬意を払いたいと思う。また行政に当たるものも「国体という名の都市づくり」を本心として、各種施設、道路等の整備に全力を傾けた業績も高く評価すべきだと思った。道路の如きは、走行距離約一千キロの中に新潟、山形秋田の三県を廻ったのであるが、先ず秋田を一〇点とするならば山形七、新潟六点という所であろう。それだけの努力は充分に私達の自動車のスプリングに感じて来た。また大変評判がよいために、三十九年のオリンピックまで民泊にしてはどうか、という意見まで出ている昨今、私は秋田の民泊は窮余の一策であり、あれ以上どうすることも出来ない事情にあったという事を、自動車で隅々まで走り廻って見てはじめてわかったのである。例えば、長岡から柏崎に来るまで、駅前または駅のすぐ近くに旅館のないのは越後岩塚位でなかろうか。他は大なり小なり宿がある。しかるに秋田にタクシーも少ない。民泊はこの様の中から出たものであり、この窮余の策を誠意を以て活用したのが秋田の実態でなかろうか。従って素朴にして人情味溢るる秋田県人の心からの接待を受け、民泊したもの悉くが感謝しているわけであるが私はただ単にこれを喜んでよいとは言えないと思う。すでに漸くそれに対する反省も現れ、新潟県選手団の反省会にも「気苦労だった」という意味のものが出ている。これには一体国体をどう見るかが基本的の問題であると思う。相集う一万四千人の者の交歓、レクリエーションなのか、日本の体育の総決算なのか、それとも体育人の来るべき年への誓いと実行を示す集りなのか、こゝが肝心であると思う。この点がボヤけて来ると、ショーとしての国体が展開し、春のおどり、夏の水中レビュー、秋の国体、冬のアイス・ショーという様な四大ショーに堕すおそれが充分あると思うのである。すでに国体はこの危険性が多分に出て来ており、手ばなして、ジャーナリズムの国体批評に賛意を表する事が出来なくなっていると思う。国体の本命は私は現在の日本の体育のすべてを決算し、来るべき年への具体的な目標を定め、これに対する誓いを銘記するものでなければならないと考える。秋田国体に全国選手の出したその記録を詳細に検討するなら、誠に情ないの一言に尽きないであろうか。僅か一、二の者の記録に最大の賛辞が出されているが、そのものさえ採るに足らぬものでしかない。本当に盛り上る国体でなく、さながら敗者復活戦の様な記録内容でなかろうか。昨年の熊本に負けない様に秋田ががんばり、本年の秋田に負けない様にと来年の岡山が努力する事はよいが、それが、開会式の色彩や、華かさにのみ追われる様な事があるならば大きな問題である。国体がショー化する事には非常な警戒が必要であるのでなかろうか。

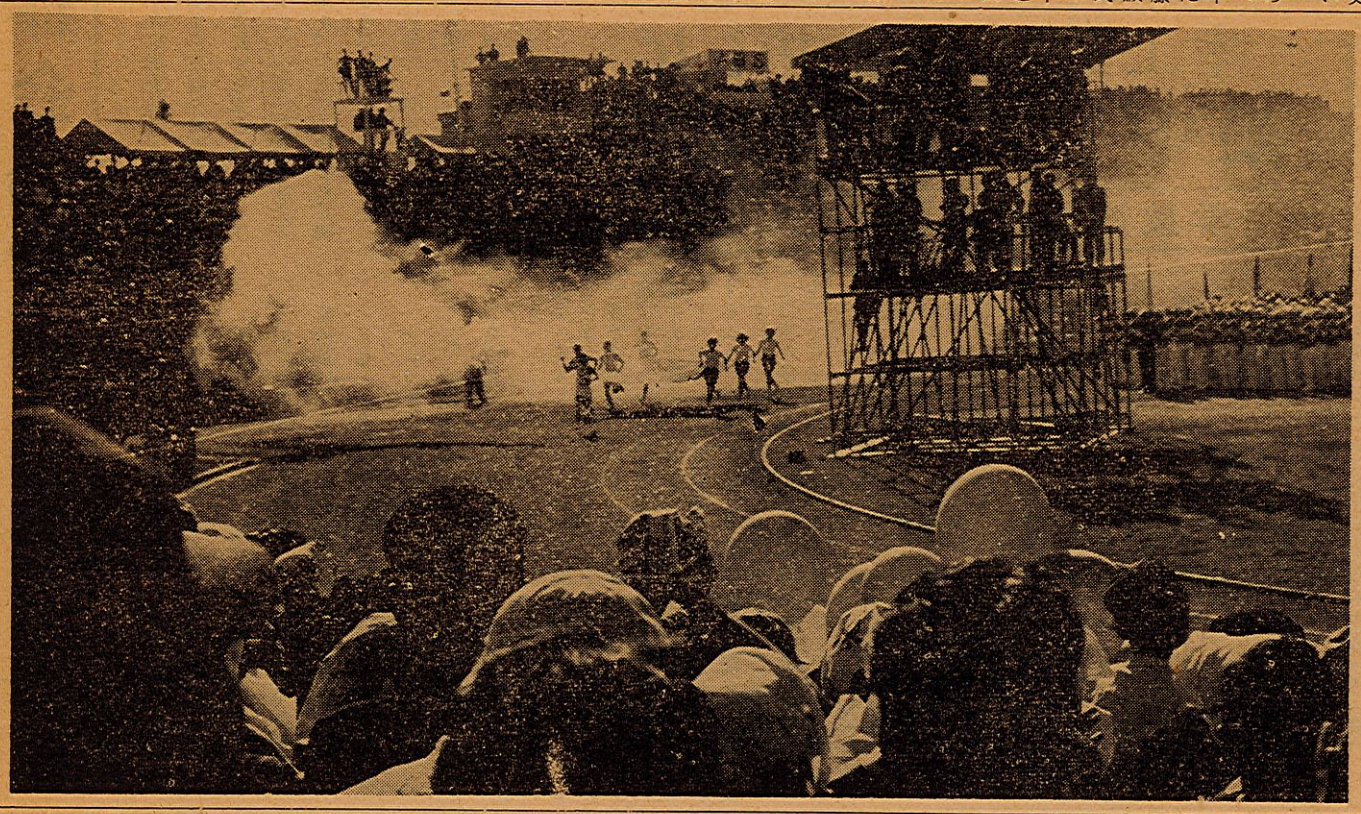
この立場から私は民泊は本道ではないと思うのである。秋田の成功はよい事であるが、これが成功した事が民泊を重視するという事であってはならないと思う。あくまでも選手の最高の力を発揮させるために如何にあるべきかが考えられねばならないのでなかろうか。

第二に開会式におけるエキジビション、各地における開会式のエキジビションについて考えたい。

秋田国体のエキジビションは、所謂体操または体操的なものが多かった事を、一つの特色としている人もある。また色彩、郷土色等の盛り込みがよかったとほめる人もある。構成、配置等が非常に訓練されていたと説く人もある。それぞれ観方はあろうし、あれだけやるには中々の努力、苦心であったろうと心から敬服するものである。

しかし私は、このエキジビションがその八割までが高校以下の少年達によって実施されている事に問題を見るのである。言うまでもなく、今の日本の体育は、放浪癖のついた犬の首縄を解いた様のもので、全くどうにもしようのない有様が社会体育の現状であり、これを根本的に建直すには、どうしても学校体育より考え直した実践をしなければならないという考え方を基本的には持つものである。その意味では秋田国体に見られる学校体育の側面には参会の者も=特に学校の先生は=感ずる所が多かったと思う。だがあの様な行き方が好評であったり、比較的訓練し易いの故をもって今後とも主流を占める事があったら問題があると思う。およそ国体は限りある人員の参加である。国体を期とし、その地方の体育の総決算をするとするならばそれは必ずしもスポーツであってはならない。真に体育がどの位の生活の中に合理的に滲透し、且つ効果をあげているかと言うことであろうと思う。そう考えると、学校の生徒と婦人会の出場でなく、職域、年令、性別等によるもう一つの飛躍が今後の課題でなかろうか。その様な姿における時はじめて、体育は健康への技術となり得るので、単なるレクリエーションではなくなって来ると思う。国体におけるエキジビションはこの一面を示し、国民の意気と明日への力を誓い合う事でありたいと思う。滔々として見るスポーツ、見せるスポーツに堕していい時、国体まで見せる大会に堕すのを見るに忍びない。選手役員でない者の進むべき道を明確にしたいものである。

昭和三十九年は新潟県が国体を引受ける年である。全体の開会式は已に新潟と定まっているので、わが柏崎市は種目別の開会式をする外ない事となる。しかしこの開会式を開会式のつもりで、全市民参加の一大体育祭を開こうではないか。柏崎市民の体育という大きな氷山の一角をこの時示して、体育のあるべき姿を造りあげたいものである。



聖火、聖炎旗入場（八橋競技場）　竹井氏撮影

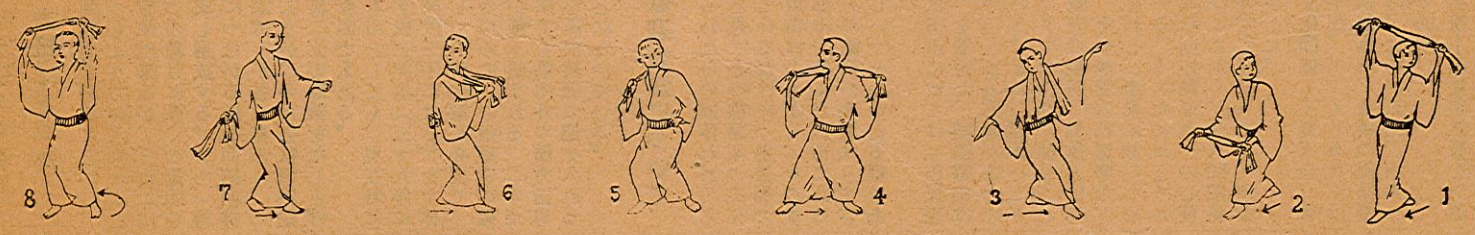
県選手団の入場

体育民踊講座

男みかん船

手拭を持った歌謡舞踊として振付けてありますが、民踊風に一列円形で元気に踊って頂きます。

踊りは、前奏や歌詞間奏に関係なく、前奏十六呼間後の動作を繰り返して踊ります。



前奏（三十二呼間）

八呼間……円心方を向き、両手で手拭の両端を持ち体前下方に下ろして直立静止する。

八呼間……手拭で軽く股を四回打つ。

八呼間……左足を斜め右に出し、両手を頭上高く（左手を少し低くして）挙げて左手を見、（第1図）次に左足を右足につけて両手を下ろし、次はこれと反対の動作をする。

八呼間……両手を左右にふりながら、左足より二歩後退二歩前進する。

（一）

沖の……左足を斜め右に出し、両手を前下方で交互に二回上下にふり、次に左足を左に出して開く。

暗いのに……前と反対の動作をする。

エンヤラサ……左足を再び斜め右に出し、円心方を見ながら、体重を左足右足とかけて船を漕ぐ如くする。（第2図）

白帆がみえる……左方へ二歩進み、左方を向いて手拭を両手で首にかける。

エンヤラサ……左足を更に一歩出し、両手は掌を後方に向けて頭上前に挙げ、次に右足を出し、両手を左右平に（右手は少しく下げて）開いて右手を見る。（第3図）

みかん……右手左手と頭上前に挙げながら、左方より二歩で廻り右方（円心に対して）を向く。

船だよ……左足を出して右手で手拭の一端を持ち、次に左足を引いて正面向き、左手でも手拭の一端を持ち右方を見る。（第4図）

文左衛門……右足を斜め左に出し、両手に持つ手拭を前下方に下ろし、次に右足を右に出しながら、右手で手拭の中央を持つ。

が……左足を右に出して右方を向き右手の手拭を右肩にかけ、次にそのまま体重を右足に移し、左手を腰にして円心方を見る。（第5図）

意気で……左手を中央にあて、両手を左右に開いて手拭の両端を持ちながら、左方を向いて二歩進む。

乗り切る……左足を更に一歩出して両手で手拭を胸前で二回廻し、次に更に一歩右足を出し、両手で手拭を首にかけて右後方を見る。（第6図）

遠州灘……左足を出して体重をかけ、次にその足を引き、次はこれと反対の動作をする。

吼えるあらしに……右手に持ちたる手拭を左右に大きくふりながら左足より二歩前進する。（第7図）

ニッコリ笑う……更に左足を出して手拭を左方にふり、右手で手拭を持ち、次に右足を出し両手を右下方に下ろして右方を見る。

きもの太さは……両手を頭上高く挙げて左右にふりながら、左方より四歩で廻り右方（円心に対して）を向く。（第8図）

紀州一……前奏十六呼間後の八呼間の動作に同じ。

（註）これで第一回の踊りがすんだのですから、第二回目は、前奏二十四呼間後の動作からすることになります。斯うして歌詞や間奏に関係なく繰り返して踊って頂きます。

一、沖の暗いのに　エンヤラサ
白帆がみえる　エンヤラサ
みかん船だよ　文左衛門が
意気で乗り切る　遠州灘
吼えるあらしに　ニッコリ笑う
きもの太さは　ヨー　紀州一
エンヤコラサ〈〈〈〈

中学校体育の問題点（一）

阿部芳郎

いよ〳〵明年度より本格的に実施される教育課程の改訂による、中学校教育の変向は、つい先日強行された「全国一斉学力テスト」により、その真意を明確にした。そしてそれが日本国民の破滅を招来するやも知れぬ程の重大な問題点を包含している事は、茲一両年文部当局と日教組の対立は別問題としても、教育学者、思想家は勿論、政治、経済産業の夫々の分野に於ても激しい論争が繰り返され、子を持つ親の等しく注目している処である。而して、中学校体育とて勿論その渦中に超然たる例外も許される筈はない。否むしろ最大の被害者と言い得るかも知れぬ、が今の私にはこの問題に真向から取り組む余裕もないし又その力もない。ただ現場の一教師として日々の営みの中から、多少の関連を持っている二、三の問題点を提示してみたい。

◇オリンピック・ムードについて

文部省の「対外試合制限令」も「全国放送陸上競技大会」の開催を突破口に、「選抜陸上競技教室」から本年八月の浜松に於ける「全国水泳教室」となり、更には、秋田国体の機に、全国中体連は「東京オリンピックの選手育成に全面的協力を決議した」と新聞紙上は報じている。

もと〳〵戦敗国と言う特殊条件の中に生まれた新学制乃至新教育に於ける学校体育は、「自主性の啓培」を旗印に「学習の興味づけ」を金科玉条にして、蹈々としてスポーツ偏重へと走った。そして幾多識者の忠告にもかかわらず生活環境の整備と経済生活の向上とともに、その傾向は益々激しく、スポーツは課外クラブ活動の主流を占め、学校体育の主客は転倒し各種スポーツ大会の制覇そのものが学校体育の主目的となり、為に学校も教師もそして生徒も奔命に疲れ果てつゝあった昨今の現況である。選手指導の徹底は、年中無休が殆んど常識となり。毎年五月から十月までの間の全ての日曜が何れかの種目の試合に割り当てられている事も亦今日では常識となっていること故詳説を要しまい。

先年実施された「第一回全国中学生選抜陸上競技教室東京会場」に折から訪日中のドイツ陸上競技選手団のコーチが現われて「発育途上の中学生の専門種目への専門的訓練が百害あって一利なき」ことを説いたと伝えられている。この親切な忠告に、どれだけの研究と反証があったかは知らないが、オリンピックムードの追い討ちである。

人間発育の全過程の中にあって、細心な注意と積極的な意企による助長措置と偏癖適正措置を、最も必要とすると思われるこの時期に於けるこの時期に学校体育が、スポーツ選手養成の為の奉仕になるとしたら、誠に莫然たるものがあろう。

◇国体ムードについて

オリンピックの年に新潟国体がある。そして一般軟式野球・ハンドボール・水球・の三種目が柏崎を会場として実施されることは周知の通りである。現今の野球ブームの中に実施される一般軟式野球は別としてもハンド・ボール、水球はともに当地方には全然なじみのない種目ではあるか、積極的に誘致した以上「水球の町柏崎」「ハンドボールの町柏崎」のムードの中に大会を実施する責任と使命を当局は自覚しているに違いない。「秋田のフクヒー」「能代の体操」「鷹の巣のバレーボール」を目のあたり視察して来た当事者達が「国体運営の秘訣」をこゝに発見し、今更の様に事の重大さに驚くと同時に鋭意その方策の考究に没頭している事は想像に難くない。而して、この事は「スポーツ選手育成に明け暮れる中学校体育」に又別の意味の問題を投げかける。好むと好まざるとにかかわらず。

「水球」も「ハンドボール」も「改訂指導要領」にはのっていない。この事は「体育の正課授業に於て指導しなくてもよいスポーツ」と云う意味で決して「指導してはいけないスポーツ」と言う訳ではない事は勿論である。然し実質的には「この水球やハンドボールの如く「特に指導を必要としない種目」を特殊の事情によって指導する事によって「指導を必要とする種目」（球技では籠球、排球、蹴球）の指導を軽減する事を許さない。と言う規定のある事を再確認すればせい〳〵工夫しても年間数時間これに当てる事か出来れば最上と言うべきであろう。かくして水球もハントボールも、その普及の基底をクラブ活動に持つ事になる。地域人にも学校職員にも殆んど斯道の経験者を持たない中学校に於ては、市当局の多少のテコ入れがあったとしても到底「野球」「庭球」「卓球」等の如き早急の普及は望むべくもあるまい。加え、陸上競技、野球、排球、籠球、卓球と殆んど人的にも施設の面からも極限に近く発達した今の中学校体育クラブの中にこの新顔は果してどの様な型で割込むのか。その加入によって生ずるしわよせを真向から浴びるクラブは何か、吾身を顧みてガク然とする。

然しながら、それにもかかわらず、私は「国体の成功は会場地のムードにある」と確信し、そのムードの作りの根底は、中学校への働きかけにあると主張する。そして柏崎体育人の一人として、国体の成功を祈ってやまない。

◇中体連について

現在の中学校体育の秩序と進展は、中体連の統制と指導にある。と言っても過言でない。それは地方教育委員会の指導主事は勿論、出張所主事等も遠く及ばない実力を持っている。事の善悪は別として、全校挙げての応援の中に展開される中学校の各種スポーツ大会にも吾々は地区指導主事の顔すら見ない。長いシーズン中の日曜毎に郡市三十余の中学校とその生徒数千人を動員するこの強力な中体連の実践力に多少の掣肘を加うるものがあるとすればそれが余りにもガッチリしたワクとなって個々の学校の学校運営を規定し、相当額の経済的支出を伴うが故の「郡市中学校長会」である。而して元来この中体連の組織は「県体育課」に直結し、その故に各種スポーツ団体と密接な関係を持つ「スポーツ行事中心」の性格の濃厚な団体で「教育課程としての体育」は「学校教育課」の系統による地区指導主事の指導事項に内包されるものであった。それが、中学校体育か、スポーツ行事面を中心に大きく偏頗な発達をとげるに従って中体連が大きく中学校体育の全面をおおい尽すに至ったのである。勿論この間中体連に於ても幾度か反省がなされ（少くとも柏崎刈羽地区に於ては）「中学校体育の本質究明」への努力が試みられたのであるが、年々拡大複雑化するスポーツ行事の運営に手一杯となり現今に至った事も亦やむを得まい。そしては学校体育の本質的問題―は、表面的にはとも角、実質的に「中体連とは殆んど無関係に「学校教育課の指導主事」を通して、極めて微弱な動員力と浸透力を以て、文部省見解の伝達形式でなされているのである。

そしてこの指導主事の努力とそれに連なる現場教師の細々とした研究精進も、春ともなればスポーツブームに乗ってふくれあがった中体連の――中体連自身どうしようもない加速度の様な――強力な実践力の前に水泡の如く消え去るのである。

オリンピック・ムード、国体ムードは更に一段と中体連の膨脹をもたらすであろう。学校体育の本質の探求を置き去りにし、学校長の学校経営に重圧を加えつゝ極度に膨脹を続ける中体連に何時自壊作用が起らぬと誰が保証するか。又、文部省を後楯に「改訂指導要領」の完全実施を機に失地回復を強行するのであろう。「学校教育課」のある事を思う時、問題は益々複雑にして多岐、収拾のつかぬ混乱さえ予想される。そしてこの二筋の鉄軌道に身を切り刻まれる者は現場教師であり、蝕ばまれる者は生徒である事を酩記すべきである。

◇暗い谷間の生徒について

一つの例外もなく郡市の中学校は、開校以来最大の生徒数を持って昭和三七年度を迎える。「せまき門」の恐怖感は、一種の合言葉となって、日毎に浸透し、父兄や生徒は勿論、教師自身も今から既に憔悴している現況に「改訂指導要領」の骨子たる進路別指導、それに連なる先般の「全国学力一斉テスト」に見られる「英才教育」のムードは、智力偏重主義に拍車をかけ補習につぐ補習、テストに明けテストに暮れる年、それが昭和三七年である事は間違いあるまい。又所得倍増政策の破綻は経済界の前途を誤まり、本年度招来した空前の求人ブームも、反動的に明年度の見通しを暗くしている。そしてこゝに予想されるものも補習とテスト以外の何物でもない。絶対に再び来る事のない貴い青春の日々を、狭く暗い教室の中で送る無惨さは、理屈ではなく、貧しい日本に生を受けた者の持つ悲劇的「生の掟」であろう。泣いたとて、叫んでみたとて如何ともし難いこの巨大な壁の他方には、如何にもせっかちな島国的功名心を基盤に、オリンピックとプロ野球を二本の柱とする滔々たる時流の渦がある。この二つの奇怪な巨人達に蝕ばまれつゝ暗い谷間に右往左往する悲しき生徒達に、一体今の学校体育はどれだけの役割を占めているのであろう。そして又どれだけの事が出来るのであろうか私は知らない。

雑感

大洲小学校　武藤保則

どうしたことか私が小体連の会長を引き受けることになった。運動は好きだ。殊に体育人は明朗だし、余り物事に拘泥しない。殊に若い人々の中で仕事の出来ることを楽しみに喜んで引き受けたわけである。

さて何か書け、と言われたが、色々の調査も現在進行中だしまた余り数字的なことを述べてもと思い雑感として気ままなことを述べて見たい。

その一

米山登山をして思うことは、体力も脚力も相当あると思われるのに、前山の六〇〇米あたりで、ヘタバル者が随分多いことである。これが意志力の弱さから来るとしたら私共はもう一度反省してみる必要がある。子供達を養護することは非常に大切であるが、同時にきたえることやがんばりをどの様にして与えるかもまた大切なことである。

その二

スポーツ。スポーツとうたわれ、これが安価な球技にのみ追われて、大切な徒手体操や機械使用の面がおろそかにされていては正しい体育とはいわれない。

その三

アツマレ。キオツケ。ヤスメ。等の大声の号令は、軍隊式だの、復古調だのと考えていたら、大切な集団行動は指揮されまい。集団的訓練の欠如は、団結力を弱めたり、非常災害の際の混乱を引き起したりする。現代式簡潔な号令は、どしどし使用されてよいと思う。

その四

小、中、高、大学校。それに実社会の系統的体育であるべきだと考える。小、中、高までは教材の内容的系列で一応脈絡は保っているが、指導や方法の関連的行事や打ち合せはほとんどない。ましてや、大学とか実社会とは別である。

年間計画とか、時おりの会合によってお互の立場を尊重しながら、理解し合って協力することが、一層柏崎市の体育を向上させるのではないだろうか。

その五

柏崎市に養護学校があってよいのだ。海もあり山もあり丘もある。立派な松林がある。

私は特殊学級で満足しないで、柏崎市にある自然的条件、医療的機関の応援を得て立派な施設に組みたてるべきだと考える。

また鯨波、東ノ輪、番神の連鎖での夏季集落、高浜一帯、米山、笠島一帯の夏季集落など、児童生徒対象の施設が具体化されていく時集団行動が充分行われるのではないだろうか。

また、長野や東頸、三魚沼、小千谷、十日町、長岡見付、栃尾、古志などの山間へき地の子供たちは、学校の板の間にごろ寝することなく、自然に流れ込んで来ることを確信する。

この項についてはいずれ詳細に述べる機会もあろうかと思う。

一九六一・一一・七

坂田体研だより

管理室より

○第三回、早朝健康体操会の成果

此の会は、前号にも申し上げたように、本研究所体育館落成記念事業の一つとして六月以来開催して居るのでありますが、六、七月を第一期とし、八月は町内のラジオ体操会に参加することとし、九月を第二期、十月を第三期として開催致しました。

幸いにも、回を重ねる毎に参加数が増し、従って、最初は殆んど北園町の有志の方ばかりであったのが、第三期には広小路、住吉町南町、本町八丁目、諏訪町栄町方面からの御参加もあって毎朝賑やかにそして楽しい体操会でありました。

毎朝六時半の開催でありますので、時恰も日に日に夜の明けもおそくなり、冷気も加わりますので、その成果が気づかわれましたがさすがに幾人かの落伍者もありましたものの、最後まで数十名のお集りを得ましたので、去る三十一日に二十九名の方に努力賞を、十九名の方に技術証を四人の方に指導者適任証を差上げました。

今月からは一層季節的に集会困難に向いますので、来春三月までは日曜毎の集りだけにする予定でありましたが、折角早起きの習慣をにぶらせる事は惜しいとあって、有志の方と一日も休まず元気に愉快な集りを続けて居ります。

○体育民踊会続々誕生

十月に入って続々体育民踊会が誕生致しました。

△梅沢麟郎民踊会（月二回）
△新花町体育民踊会（同右）
△北園体育民踊会（同右）
△末広体育民踊会（同右）

等でありますが、中には全会員が、他郷から転住された方ばかりのものもあって月二回の集会には一方ならぬ感激であられます。

○ボーイスカウト合同訓練

当研究所体育館を訓練場とする第五隊ボーイスカウトは、その場に恵れて居る事を他のスカウトより羨望されて居る由であります。

十月には、二三回、一・二・三隊を迎えて当体育館で合同訓練を行いましたが、このような意義ある訓練を今後は屢々やって頂く考えです。

尚、近く、小中学校女生徒の体育中心の団体を設けたいと準備中であります。

新潟県快勝す

秋晴れに激戦展開 19種目に大会新

対長野県陸上競技大会

「」内は従来の大会記録
⊙は大会新記録

（男子）

▼二百米「22・7」
①渡辺正芳（新潟）⊙22・3
②赤羽惟正（長野）⊙22・5
③金子隆夫（新潟）⊙22・5

▼百米「11・0」
①金子正（長野）11・2
②赤羽惟正（新潟）11・2
③市岡（長野）11・2

▼走巾跳「6・77」
①薄波謙一（新潟）⊙7・34
②青木（新潟）6・62
③小山（新潟）6・74

▼千六百米継走「3・28・9」
①新潟県（内山、古堅、宮田、渡辺）⊙3・27・9
②長野県（内山、細田、増川）3・34・5

▼走巾跳「6・77」
①横山一征（新潟）1・85
②高橋一（新潟）1・82

▼四百米H「57・4」
①宮田新太郎（新潟）⊙57・8
②藤田（新潟）57・8
③藤原（新潟）57・8

▼四百米継走「44・1」
①新潟県（森田、庭山、小山、金子）⊙43・6
②長野県（塩沢、市岡、小口、赤羽）⊙44・0

▼五千米「15・36・4」
①大日向幸雄（長野）⊙15・18・8
②原田和夫（長野）⊙15・19・2
③丸田終（新潟）⊙15・33・2

▼一一〇米H「16・2」
①高野正也（新潟）⊙15・16・0
②藤田栄三郎（新潟）⊙15・16・0
③福島（長野）⊙16・3

▼千五百米「4・6・0」
①河原幸雄（新潟）4・9・8
②市川（長野）4・9・7
③森泉（長野）4・9・8

▼四百米「51・2」
①渡辺正芳（新潟）⊙49・8
②内山（新潟）51・8
③増田（長野）52・3

▼八百米「1・59・4」
①市川勤（長野）2・0・8
②小川（新潟）2・1・9
③羽田（長野）2・3・0

▼百米「12・6」
①山浦富士子（長野）12・0
②伊倉（新潟）13・2
③見田（新潟）13・0

▼二百米「27・4」
①山浦富士子（長野）27・5
②伊倉（新潟）27・5
③見田（新潟）27・8

▼八十米H「12・6」
①熊谷悦子（長野）⊙12・3
②中野モモ子（新潟）⊙12・5
③結木（長野）13・4

▼四百米継走「51・5」
①新潟県（伊倉、見田、中川、長野県（長瀬、新井、内山）52・2
②長野県（佐藤、見田）52・0

▼走巾跳「5・23」
①新井政江（長野）⊙5・44
②山浦富士子（長野）⊙5・38
③松浦（新潟）5・⊙16

▼槍投「41・86」
①沖よし江（長野）37・60
②涼（長野）32・54
③藪中（新潟）

▼砲丸投「11・16」
①加藤克子（長野）10・66
②長沢（長野）6・11
③名取（長野）6・11

▼円盤投「34・20」
①加藤克子（長野）29・7
②名取（長野）29・7
③桐（新潟）29・7

▼鉄槌投「46・70」
①秋山卯吉（新潟）53・87
②杵淵（長野）53・56
③小林（長野）53・56

▼槍投「58・51」
①渡辺、丸山、太田（新潟県）49・8
②長野県（片岡、高橋、丸山、太田）53・7

▼番外年令別四百米継走「49・1」
①新潟県（女子）
②高野（新潟）1・77
③嘉代（新潟）1・77

▼棒高跳「3・81」
①本間（新潟）⊙3・82
②小口（長野）3・72
③伊藤（新潟）3・62

▼三段跳「14・24」
①薄波謙一（新潟）⊙14・44
②小口正行（長野）⊙14・28
③北林（長野）14・18

▼砲丸投「12・94」
①石原健一（新潟）⊙14・17
②小笠原聖士（長野）12・⊙17
③高世（長野）12・⊙17

▼円盤投「37・38」
①林東治（長野）⊙40・37
②石原健一（新潟）⊙38・87
③青山利春（新潟）⊙37・67

▼槍投「73・65

秋の市民スポーツ大会

11月 3・4・5日

例年天候には恵まれていた秋の市民スポーツ大会も今年は遂に三日間を通じて雨にたゝられた。

そのため野球は一部中止弓道は中止、洋弓も二日目が中止、庭球は十二日に延期とサンザンな目にあったが、屋内競技は中々活気ある競技を展開した。

バスケットボール

北斗クラブ（北鯖石）が優勝

バスケットボール大会は五日午前九時から柏崎高校体育館で開催、六チームが熱戦を展開したが、前年の優勝チーム北斗クラブが勝利をおさめた。

一回戦

本町四—柏高野球部（失格）

北斗ク51—16中浜チーム

△準決勝

中央ク28 12本町四

北斗ク37 21四ッ谷

△決勝

北斗ク51（18—13、19—24）42中央ク（14—5）

OB模範試合

若草ク（女子）が辛勝

恒例のOB紅白試合は、市民大会の当日二時から行われた。過去二回の対戦は一勝一引分で枯草（男子）がリードしているだけに、女子軍の張切りようは異常なもの。試合は前半12対16で男子軍にリードされ乍ら、後半二分で28対28となり最後の三十秒でリードを奪って逃げ込み、初めて女子軍の勝利となった。

若草ク30（12—16、18—12）28枯草ク

当日のメンバー次のとおり

若草ク（女子）

関若菜（産科医）近藤美代（教員）遠藤和子（主婦）桑山史子（教員）猪俣知代江（事務員）中村美津子（会社員）

枯草ク（男子）

渡辺五郎兵ェ（旅館主）入沢藤英（大学助教）前川三郎（会社員）仁木毅（酒店主）高橋保（教員）長谷川煌一（呉服商）神林新三郎（教員）

バレーボール

（二十二チーム）

準々決勝

南部ク2—0一・工ク

理研2—0柏親B

柏親A2—0新潟ウオA

柏工ク2—0柏工O

準決勝

南部ク1（41—31）1理研

柏工ク1（38—35）1柏親A

決勝

柏工ク2（21—16、19）0南部ク

バドミントン

◎男子（十九名）

準々決勝

大倉2—0尾崎

梶2—0尾崎

清水2—0阿部

小島2—0牧

準決勝

梶2（15—6、15—8）0大倉（耕地事務所）（市役所）

小島2（15—6、15—3）0清水（河川改修）（上条）

決勝

小島2（15—8、15—2）0梶幸男（河川改修）（耕地事務所）

◎女子（二十名）

準々決勝

高橋2—0伊藤

奥野2—1矢口

荒川2—0内山

近藤2—0田中

準決勝

高橋2（11—3、11—1）0奥野

近藤2（11—3、12—10）0荒川

決勝

近藤2（11—3、11—0）0高橋君栄（常盤高校）（市投所）智恵子

◎中学生（八名）

準決勝

大塚2—1小川

与口2—0野中

決勝

与口2—0大二三香代子（港町三）塚子（港町三）

卓球

◎35才以上男子（十名）

準決勝

浅賀3—1堀

岸本3—2佐藤

決勝

岸本亮太郎3—0浅賀久司（職業訓練所）（ウオシントン）

◎一般女子（三名）

尾崎祥子（短大）二勝〇敗

林喜美子（ウオシントン）一勝一敗

目黒綾子（短大）〇勝二敗

◎一般男子（二七名）

準々決勝

星野3—1本間

矢島3—2竹田

井比3—0須田

小池3—0高橋

準決勝

星野3—0矢島

井比3—1小池

決勝

星野輝夫（柏高OB）3—0井比豊正（ウオシントン）

◎高校男子（五一名）

準々決勝

青木2—0宮崎

小山7—0千原

桑山2—0小林

佐久間2—1押見

準決勝

青木2—0小山

佐久間2—1桑山

決勝

青木2—0佐久間（柏高）勝正勝也（柏工）

◎高校女子（一四名）

準々決勝

遠藤2—0井貝

大矢2—0和田

太矢2—0佐藤

風間2—1早川

準決勝

大矢2—0遠藤

風間2—0大矢

決勝

風間八重子（柏農）2—0大矢春子（柏農）

◎中学生男子（五七名）

準々決勝

石井2—0金子

加藤2—0品田

星野2—0広川

藤島2—0吉川

準決勝

石井2—0加藤

星野2—1藤島

決勝

石井一郎（第一中）2—0星野一政（第一中）

◎中学生女子（二二名）

準決勝

和田2—0須田

当山2—1飛田

杉本2—0近藤

飛田2—0今井

準決勝

当山2—1和田

杉本2—1飛田

決勝

当山由美子（第一中）2—1杉本博子（内郷中）

バレー会場の熱戦（柏高）

■国体柏崎会場を・・・■
■・・・成功させよう・・■

（5）

36・10・9 十月五日付にて新潟国体の会期について中央の国体常任委員会に於いて承認される。六月六日（土）を開会式とし十一日（木）までとす。

36・10・16 国体開催前、夏季大会、秋季大会各視案員合同の報告座談会開催（記録は一面に掲載）

36・10・23 県準備委員会事務局桝屋富樫両氏来柏、諸準備状況、事務処理の視察及び指導を受く。

36・10・24 柏崎引受種目の会場位置整備計画、予算計画の原案作成。

36・10・26 第六回国体準備委員会開催、諸計画の市案、県への要望事項を決定。

酒の本場は米の本場、稲穂の門（湯沢市）

相撲会場に於ける酒樽の塔（湯沢市）

・・・秋田国体雑記帳・・・

秋田まで自動車で何時間かゝるやらわからない、柏崎タクシー目黒専務は、まあ十三時間だろう、イイ所ですね。国体で秋田の道はグッとよくなりましたから今後はこの時間は縮まるばかり、新潟国体で本県の道路がよくなれば、十時間にはなるでしょう。

× ×

国体用自動車の指定を受けると、大会本部から渡される黄色い旗（中に新潟県の字）、とフロント・ガラスに本部のマークの入ったのをはる。天皇陛下の車、緊急自動車、次が国体自動車、一般自動車とは厳然たる区別をされました。一方交通の所でも状況によっては逆に通してくれました。乗っているのは、悪い気持ではないもんです。

× ×

第一日（七日夜）の指定宿舎は、能代に近い森岳温泉、これが中々探し出せなく、八郎潟のへりをどんどんシベリアの方へ猛進、道をきくと秋田弁まる出しで、これが又わからず、ほうぼうの態で遅く到着しました。こんな所に温泉のあるのなんか知らなかったといったら、無理もありません終戦後、石油を掘ろうとしたら温泉が出たとの事、それにしてもよい温泉でした。

× ×

秋田県全体でタクシーは何台あるのか知りませんが深刻なタクシー不足、タクシーを当てにして視察に行った人は一日一場所見れば大出来、私達は自動車を持っていったため隅から隅まで実によく見れました。

新潟国体の時は、地理的関係と自動車のはんらんからすごい程やってくると思われるが、どう捌くつもりでしょう。大会開会式場は白山競技場にするとするなら、野球場、テニスコートを取り払う必要がありますね。今から心配です。

× ×

五城目市を中心として秋田市に至るまで、全部の電柱に缶詰の缶がつけられ、其の中に花が生けてありました。さりげない様であり乍ら、人の心の美しさがわかる床しい計劃でした。走りながらほのぼのとした気持になりました。

× ×

開会式の日、何よりも美しかったものは八郎潟、男鹿半島の山々、それと鳥海山でした。

× ×

軟式野球、ソフトボールハンドボール等を見てまわりましたが、とりたてて施設、運営上感心する事はありませんでした。生意気言わせていたゞくなら、あの位なら何時でもと言いたい様な気がします。

× ×

たゞ審判員（野球）は全部秋田の人達で、帽子から靴まで新品ずくめでした、これだけは文字通りシャッポをぬぎました。

× ×

湯沢市で相撲と剣道を見ました、酒の本場だけあって中々大した熱の入れ方でした。まず飾りつけから、稲のアーチ、酒樽の塔といった有様。運営はいずれも中々キビキビしていた様に思います。剣道など中々スマートな運行でした。

× ×

国体でいつも問題になるのは宿舎です。秋田の民泊は非常に評判がよく、それだけ会場市町村は誠心誠意やったわけです。羽後本荘と象潟の中間にある西目村の如きは、出場チームが駅に到着する毎に、小学校のコテキ隊を先頭に、数百人の村民が出迎え、ドンドコピーピーやり乍ら宿舎にいくわけです。まあ戦時中の出征兵士を送る、あれをもっと賑かにした様なものです。婦人会の活躍も凄く、駅前の湯茶の接待などは当り前の話、旅館に泊っている者にも当番をきめ、身の廻り、洗濯までやるという徹底さ、文句言う者があれば、文句いう奴の方がおかしいと言わねばならぬ程でした。偉いもんです。大したもんです。

× ×

視察員の宿泊料は「米なし」税込一、一〇〇円と一定し、旅館の等級により違わない事にしてありました。私達の泊った所はいずれも大いに歓待してくれましたが、帰途泊った山形県の方が、一、〇〇〇円でこれよりずっとよかったのは皮肉でした。

× ×

コテキ隊は全県の小学校にやらせたのかどうか知らないが、至る所コテキ隊の活動で目ざましかった。たまたま十月七日にスポーツの日の行事をし天皇陛下をお迎えした羽後本荘市は、陛下のお帰りになった後、コテキ隊の市中パレードで我々の車は群集の波のため立往生、ヤキモキしながら華かなパレードを見物せざるを得なかった。本市あたりもまだコテキ隊を持っていない学校の発憤を望む次第。

× ×

中学校、高等学校はブラスバンドに熱を入れていた様である。大ていの会場が開始式の入場は高校のブラスバンドが出動していた様である。

× ×

国体ともなると、全国各地から色々のメムバーがいくものである。町内標識や道標なども詳しいほど有難い。この点湯沢市の会場案内は至れり尽せりの感があり感謝にたえなかった。地元の人はつまらないと思う程のものでも、不案内の者から見ると、涙の出る程嬉しいものである。

国体選手を宿舎に誘導する鼓笛隊（西目村）

お礼とお詫び

去る十月十五日の知名人野球大会に於て不覚にも足首関節の骨折をいたし、皆様に大変御心配をかけました。体育だとかスポーツだとか言っている者が事の如何を問わずつまらない負傷をするという事自体、修練の不足覚悟の不徹底と考え、真に恥じ入る次第であります。

約一ヵ月近い療養の間色々御高配にあずかったり、お見舞をいたゞいたり、誠に恐縮いたしますと共に心からお礼申し上げます。

今後は大いに自戒し、益々鍛錬にはげみ、体育人本来の使命の達成出来ますよう、努力いたしたいと思います。何分の御指導をいたゞきたく、お詫びを兼ねお礼申し上げる次第であります。

三十六年十一月十日

月橋会